

# 幼 児 の 教 育

昭和七年十月號

## 創 意 な き 教 育

なんの創意もなく過ぎてゆく日の、らくではあつてもあぢきないことよ。そのらくさを求むるものはなまけである。そのあぢきなさに平氣なのは鈍である。なまけは卑しむべし、鈍はあはれむべし。いづれにしても生命の衰退である。

生命の衰退を斷片に區切つて、その日ぐらしといふなさないことになる。その日ぐらしの連續が、無爲といふ恥しいことになる。自己を盛らない時間の空過だからである。

時間の空過は必ずしも拱手徒然の間にのみ起らない。手も慌しく、事も繁き間にも、たゞ忙、たゞ繁、なんの創意もなく迎へ送られてゆく時間は、一種の空過生活である。同じことの繰りかへしで、何も新しいものを生まないのは、時間そのものゝ經過に他ならぬからである。

幼稚園は、それでもすんではゆくかも知れないが、あなたとしては、ほんとうにつまらないことだ。

(倉橋惣三)